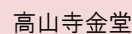


～神護寺(高雄)・西明寺(槇尾)  
高山寺(梶尾)・周山街道・清滝川～

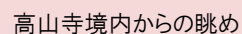
- 高山寺（梅尾）（世界遺産）

高雄・楨尾・杵尾を三尾と呼び、それぞれ神護寺・西明寺・高山寺がある。その中の1つである杵尾の高山寺は、明恵上人が、建永元年(1206)に後鳥羽上皇から寺地を賜って華嚴興隆の道場としたもので、学問寺として栄えた。

境内は国指定史跡。平成6年(1994)世界遺産「古都京都の文化財」に登録された。<sup>1)</sup>



山寺の境内林と背後の高雄山との一体感がある。



- 高雄は、周山街道が清滝川と出会う地形的な変化に富んだ高雄の地の一画に、神護寺、槇尾西明寺や榑尾高山寺などが造立された。既に15世紀の初めには紅葉の名所として知られ、また北山杉の植林も15世紀ころから行われたといわれる。こうして、川べりに料理旅館街が形成されることになった。
- 清滝及び高山寺・高雄は、四季を彩る木々や林業による美しい植林に代表されるように、森林による自然的景観が維持されている。宅地側についても周辺の恵まれた自然と一体となって深山の趣を感じさせる魅力ある緑豊かな景観を形成している。

- 高山寺・高雄は、周山街道の御経坂峠近くからの清滝川に沿う傾斜地に沿って、自然と歴史の調和した風景が広がる沿道景観が形成されているとともに、新緑や紅葉の美しさで知られる楓林と、対岸の神護寺・西明寺などの伽藍、そして高雄神護寺門前集落などが作る固有性の高い風景による優れた俯瞰景観をも形成している。この世界遺産高山寺近辺の自然と歴史の調和した風景は、本地域の風致の維持における最も重要な要素である。



清滝川

槓尾

西明寺

周山街道

神護寺

Google Earth

▼至御経坂峠

神護寺（高雄）

清滝川の北西にそびえる高雄山の山腹に位置する。高雄山と号し、高野山真言宗別格本山。北東の樺尾には明恵中興の高山寺、樺尾には空海の弟子開基の西明寺がある。



## 周山街道·清滝川

周山街道は、京都から丹波へ抜ける道の一つである。中川から周山までの沿道は、北山杉の美林が続く。<sup>2)</sup> このエリアは山に囲まれ、そのほぼ真ん中を北東から南西へと保津川の支流である清滝川が流れている。



西明寺（槇尾）

高雄の神護寺と梶尾の高山寺の間にあり梶尾山と号する。真言宗大覚寺派。  
天長年間(824－834)空海の弟子が神護寺の別院として創建したと伝える。<sup>3)</sup>



梅ヶ畑村

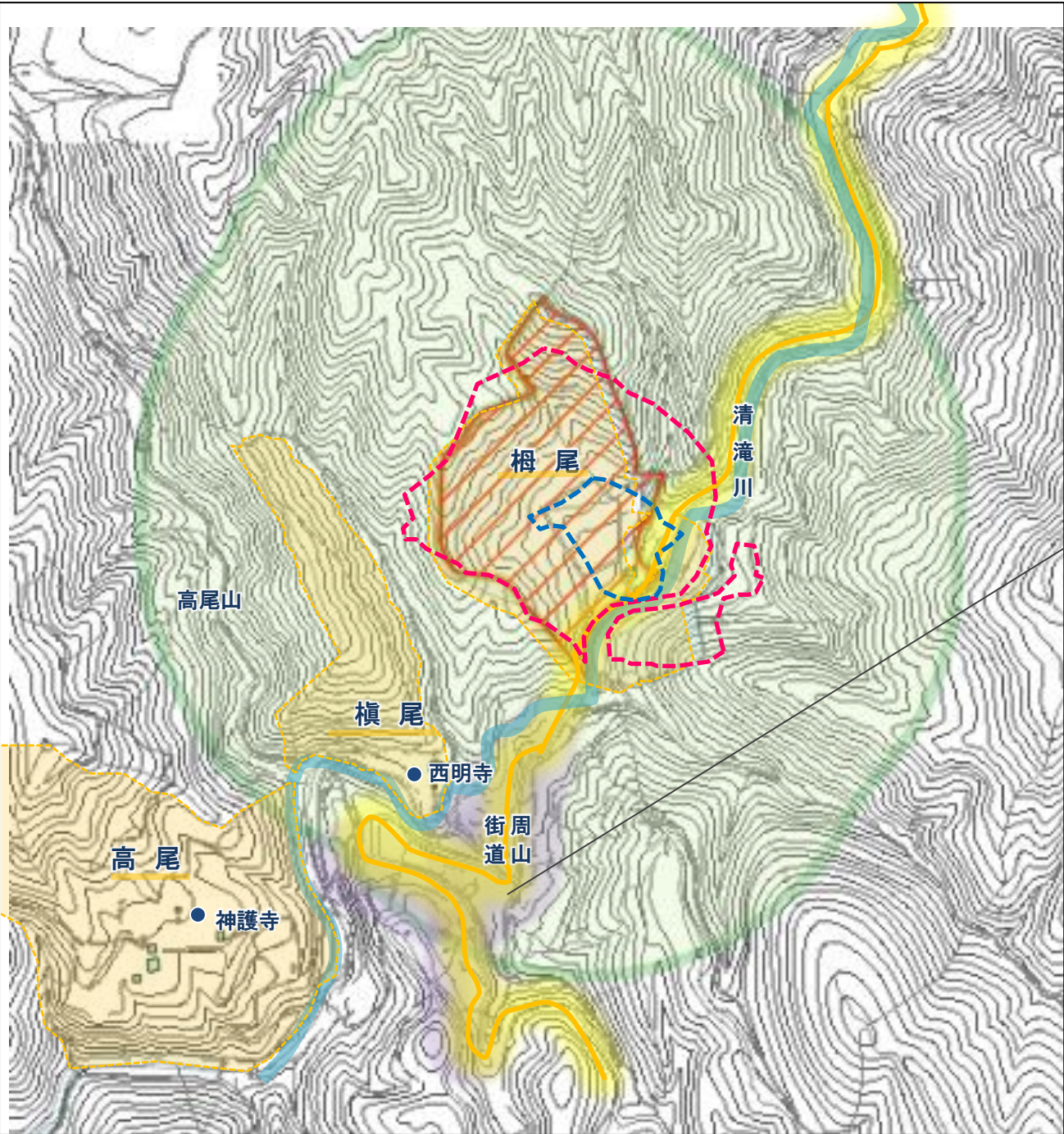
中世以来、街道沿いの集落として発展すると同時に、高山寺・神護寺の門前村として展開してきた。<sup>4)</sup>

高山寺・高雄は、周山街道の御経坂峠近くからの清滝川に沿う傾斜地に沿って、自然と歴史の調和した風景が広がる沿道景観が形成されているとともに、新緑や紅葉の美しさで知られる楓林と、対岸の神護寺・西明寺等の伽藍、そして高雄神護寺門前集落等が作る固有性の高い風景による優れた俯瞰景観をも形成している。



周山街道(国道162号)沿い集落

# エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

特に着目する通り

明治25年以前から存在する市街地

界わり景観整備地区

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わり景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

明治16-18年時点の境外

明治16-18年時点の境内

※ 国土地理院社寺データ等

※

## 梅ヶ畑村

中世以来、街道沿いの集落として発展すると同時に、高山寺・神護寺の門前村として展開してきた。<sup>4)</sup>

平岡・一ノ瀬・善妙寺・中島の4か村、いわゆる梅ヶ畑村4ヶ郷は、京都と丹波を結ぶ交通の要衝でもあったので、京都を攻防する軍兵の戦略上の拠点ともなった。<sup>5)</sup>

高山寺・高雄は、周山街道の御経坂峠近くからの清滝川に沿う傾斜地に沿って、対岸の神護寺・西明寺等の伽藍、そして高雄神護寺門前集落等が作る固有性の高い風景による優れた俯瞰景観をも形成している。

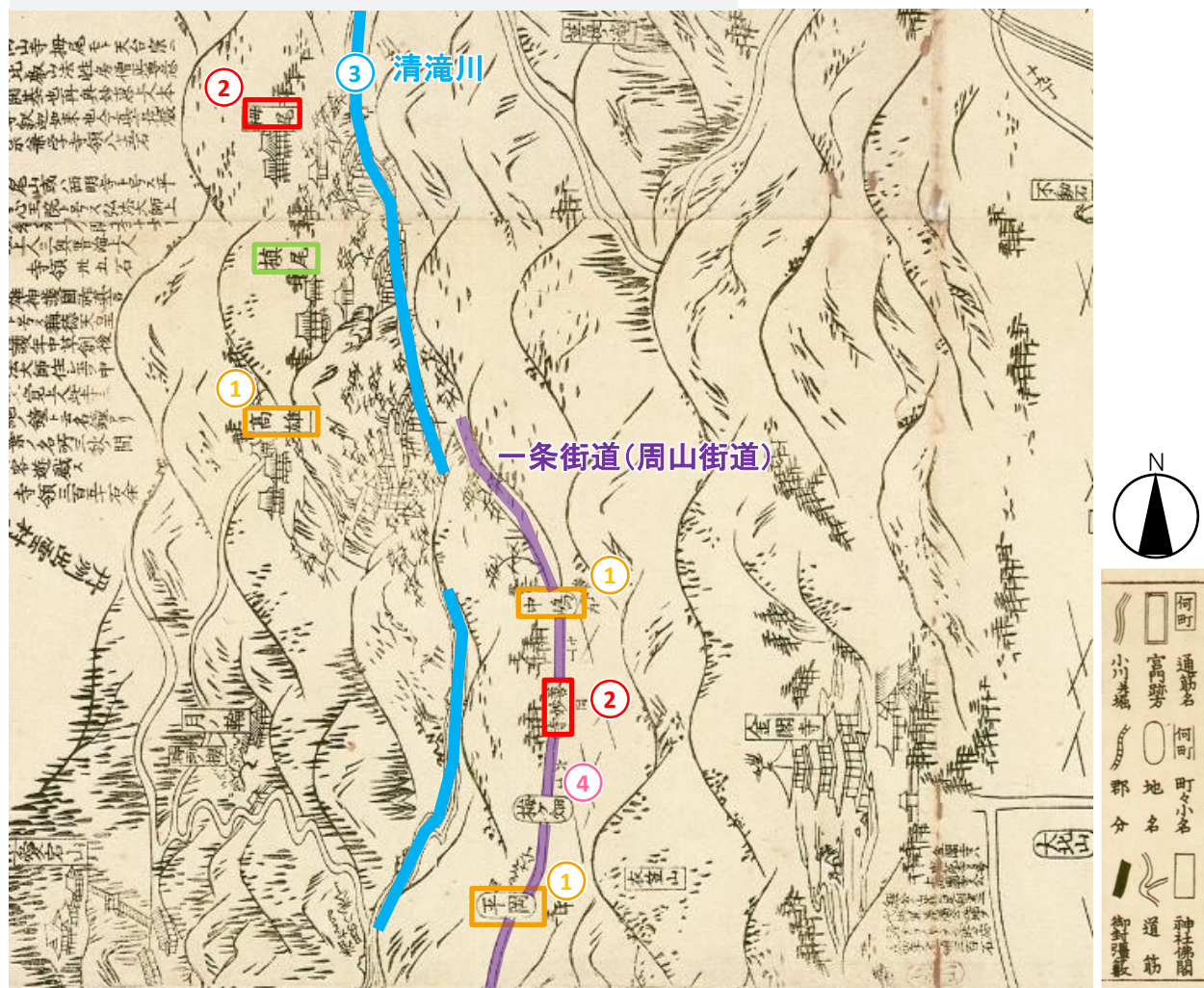
周山街道（国道162号）沿い集落

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

2

## エリアの土地利用の変遷（1）

## 明治2年(1869年) (上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

高雄・榎尾・梅尾を三尾と呼び、それぞれ神護寺・西明寺・高山寺がある。古く、平安時代には密教系の国家鎮護の寺院として、中世初期には真言宗の文覚上人、華嚴宗中興の明恵上人などによって大伽藍が建立された。

## ①神護寺と集落

厳しい地理的条件こそが、当地域における最初の歴史をつくることとなり、山岳仏教の道場として高雄山寺が創建された。これがのちの神護寺である。中世以来、街道沿いの集落として発展すると同時に、中島・広芝・平岡は神護寺の門前村として展開してきた。<sup>6)</sup>

## ②高山寺と集落

一方、梅尾の高山寺は、文覚のもとで修業した明恵上人が、建永元年（1206）に後鳥羽上皇から寺地を賜って華嚴興隆の道場としたもので、学問寺として栄えた。中世以来、街道沿いの集落として発展すると同時に、一ノ瀬・善妙寺は高山寺の門前村として展開してきた。<sup>7)</sup>

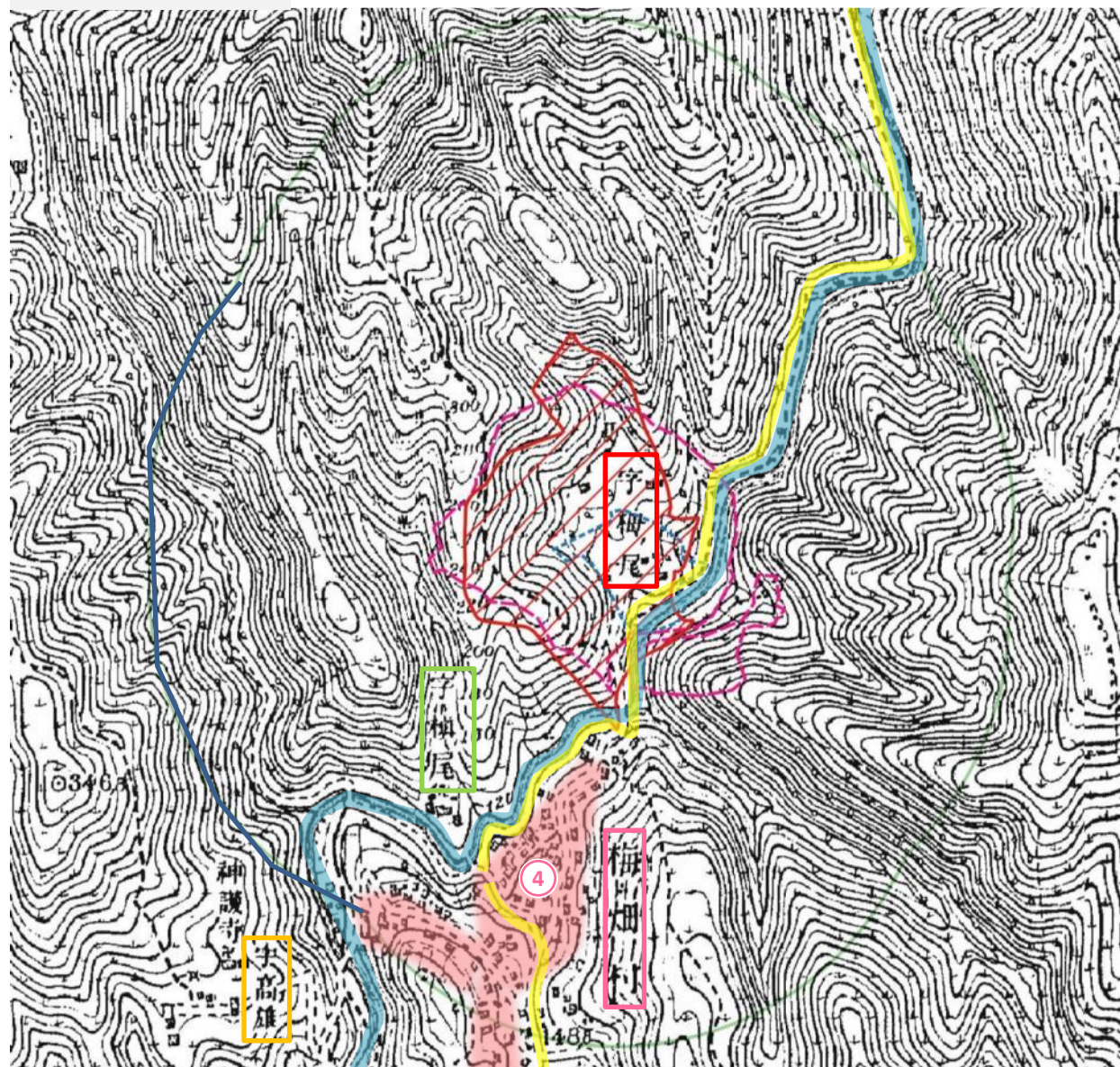
## ③清滝川

このエリアは山に囲まれ、そのほぼ真ん中を北東から南西へと保津川の支流である清滝川が流れている。

## 紅葉の名所

室町時代から高雄・梅尾・榎尾は紅葉の名所であった。

## 明治25年(1892年)



明治16—18年時点の境外地 視点場（境内）  
特に着目する通り

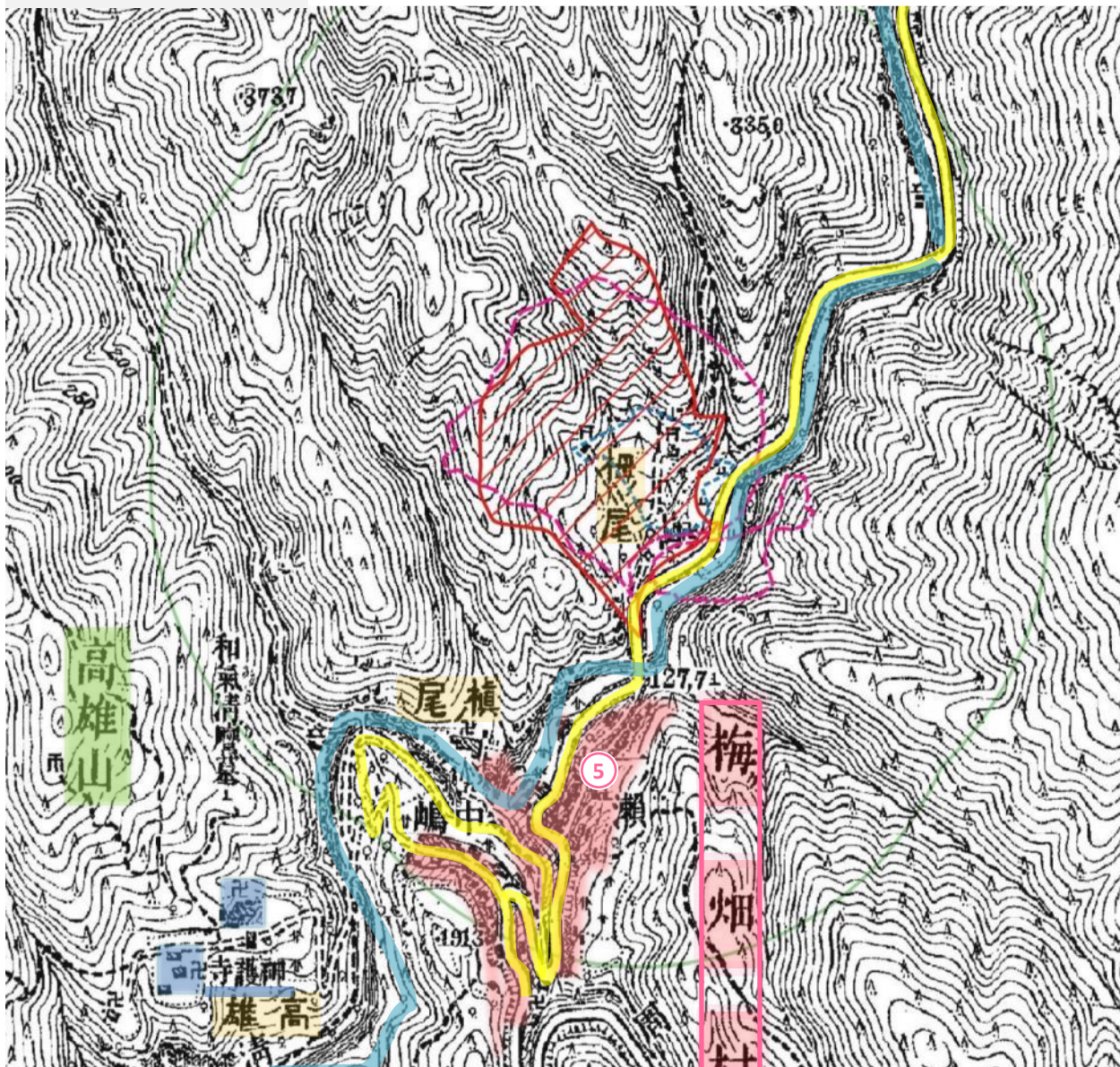
資料：仮製地形図(明治中期)  
(国土地理院所蔵)  
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

## ④梅ヶ畑村

神護寺門前の周辺などには、僧坊や下人の雑舎などが早くから存在していたが、供御人のなかには、寺院の下部としてそうした門前に居を定め、その一方で山林業や商業活動に従事する者も出てきた。こうして成立したのが、先の平岡・一ノ瀬・善妙寺・中島の4か村、いわゆる梅ヶ畑村4ヶ郷である。また、当地域は、京都と丹波を結ぶ交通の要衝でもあったので、京都を攻防する軍兵の戦略上の拠点ともなった。<sup>8)</sup>

## エリアの土地利用の変遷（2）

大正元年(1912年)



資料：正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵)  
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

## ⑤梅ヶ畑村

明治以降の近代化の波は、閑静な梅ヶ畑村にも例外なく押し寄せ、明治40年には清滝川の水力を利用した梶尾水力発電事業が開始されている。明治30年代から計画のあった梅ヶ畑村を貫通する自動車道（現周山街道）の開墾は、名勝保存の観点からの大論争を経て開通し、その後の村落を取り巻く環境を一変させた。<sup>9)</sup>

高山寺

高山寺は、宝亀5年（774）に開創された寺を、13世紀初頭に明恵上人が中興して高山寺と改称したことに始まる。中興当初は金堂、阿弥陀堂、十三重塔、東西経蔵などが建ち並んでいたが、その後中世の戦乱期に荒廃し、江戸時代にはいつて寛永11年（1634）に再興されている。

国宝石水院は、明恵上人時代の唯一の遺構で、13世紀前半に建てられた住宅風の建築であり、庇を縋破風で処理する手法や細部意匠などに、鎌倉時代の特色がみられる、自然と調和した建築であるこの石水院は、訪れる者に安堵感を与え、日本人にとっての日本文化のひとつの理想像を示すものとされる。

このほか、境内の奥寄りにある宝篋印塔や如法経塔が重要文化財建築物に指定されている。<sup>10)</sup>

文化財

|          |          |     |      |     |  |  |
|----------|----------|-----|------|-----|--|--|
| 国宝       | 石水院(五所堂) | 179 |      |     |  |  |
| 国指定重要文化財 | 如法経塔     | 177 | 宝篋印塔 | 178 |  |  |
| 国指定史跡    | 高山寺境内    | 266 |      |     |  |  |
| 市指定名勝    | 遺香庵庭園    | 334 |      |     |  |  |

〔国宝〕



石水院（五所堂）※

〔国指定重要文化財〕



如法経塔



宝篋印塔※

〔国指定史跡〕

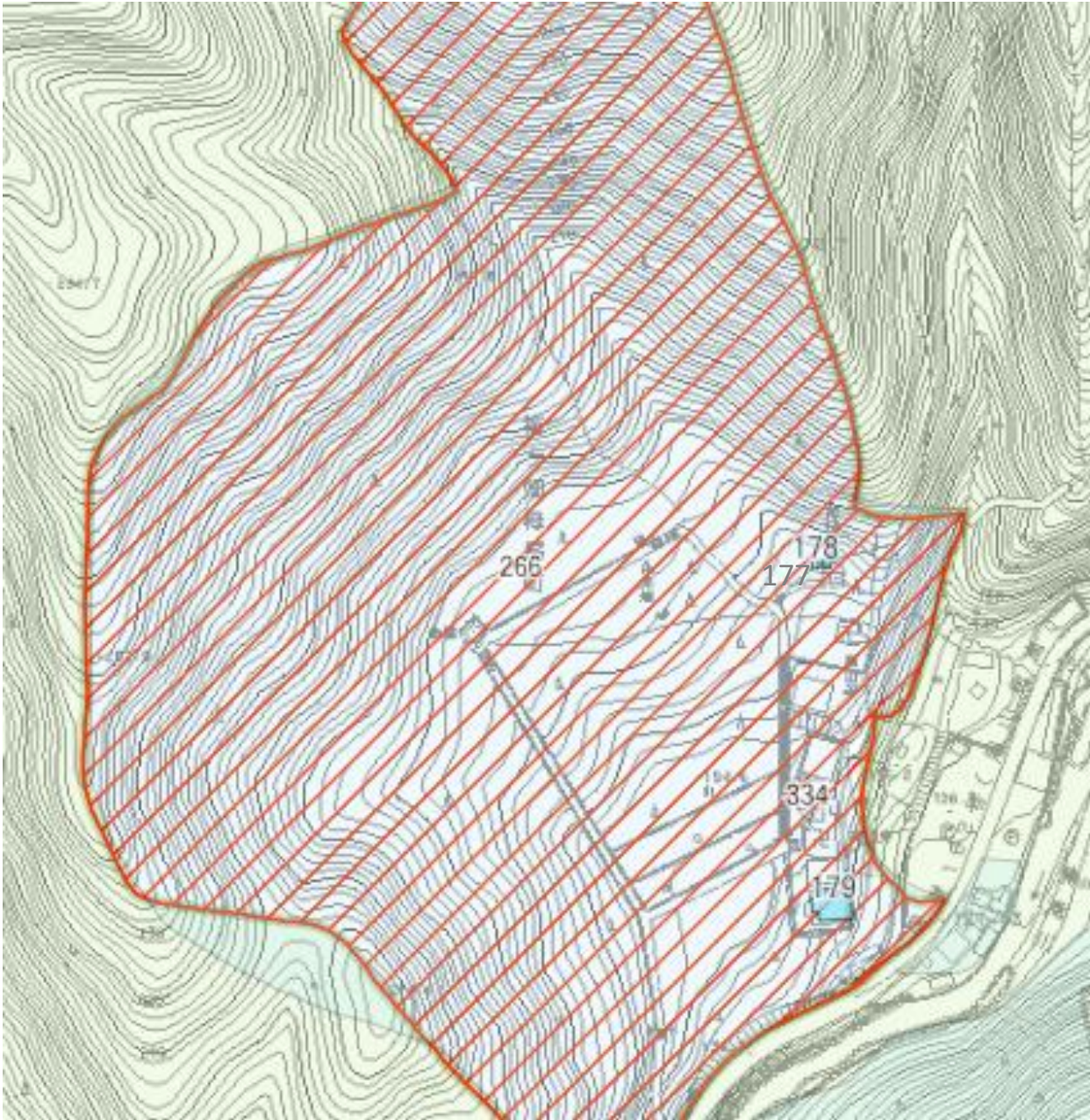


境内※

〔市指定名勝〕



遺香庵庭園



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

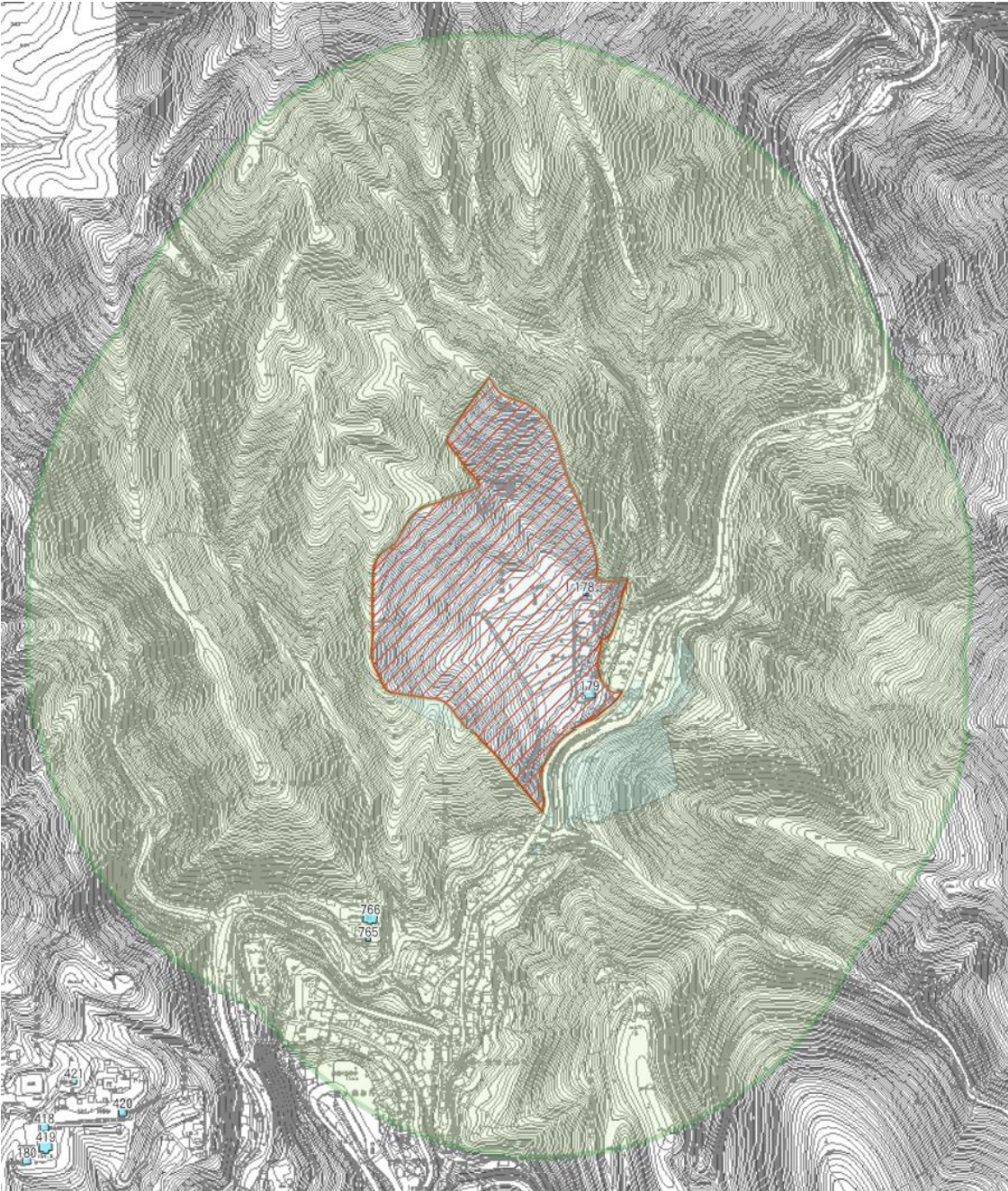
樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

高山寺周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

神護寺

※

清滝川の北西にそびえる高雄山の山腹に位置する。高雄山と号し、高野山真言宗別格本山。本尊薬師如来。神護国祚真言寺という。北東の栴尾には明恵中興の高山寺、槇尾には空海（弘法大師）の弟子智泉開基の西明寺がある。  
高雄の紅葉がいつから有名になったか正確には知られないが、足利義政は毎年、高雄に紅葉鑑賞に出向いたといわれる。<sup>11)</sup>

西明寺

〔市指定文化財（本堂、表門）〕

本堂（附 棟札1枚）及び表門※

高尾（高雄）の神護寺と栴尾山高山寺の中間にあり、槇尾山と号する。真言宗大覚寺派、平等心王院ともいう。本尊釈迦如来。天長年間（824-834）空海の弟子（甥）智泉が神護寺の別院として草創したと伝える（京羽二重）。高山寺の明恵は元久元年（1204）の秋紀州から上洛して寺を訪れ、「移★二住槇尾★一（★漢文表記）」したという（明恵上人行状）。その後荒廃していたのを健治年中（1275-78）に和泉国槇尾山寺（現大阪府和泉市）の自証が再興して此丘の律院とした（雍州府志）。その後、永禄年間（1558-70）の兵火により焼失し、神護寺に合併されたが、神護寺の晋海が寺産の一部を分付し、慶長7年（1602）に明忍が再興、真言有部律の本寺とした（明忍律師行業曲記）。現在の堂宇は徳川綱吉の生母桂昌院により元禄13年（1700年）寄進とある。<sup>12)</sup>

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

6

# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

## 嵯峨嵐山風致地区

### 【概況】

当地区は、山越・宇多野地域、梅ヶ畑地域、車折神社周辺、北嵯峨、嵯峨野、清滝、高雄、嵐山及び嵐山南地域、松尾山際地域、梅宮大社の参道、桂等から構成されている。

山越・宇多野及び梅ヶ畑地域の宅地は、敷地規模が大きく、緑化が行き届いており、豊かな敷地内緑化等を合わせて、質・量共に優れた緑が見られる。清滝及び高山寺・高雄については、四季を彩る木々や林業による美しい植林に代表されるように、森林による自然景観が維持され、宅地側についても周辺の恵まれた自然と一体となって深山の趣を感じさせる魅力ある緑豊かな景観を形成している。

### 【良好な景観の形成に関する方針】

#### ●高山寺・高雄の自然と歴史の調和した風景

高山寺・高雄は、周山街道の御経坂峠近くからの清滝川に沿う傾斜地に沿って、自然と歴史の調和した風景が広がる沿道景観が形成されているとともに、新緑や紅葉の美しさで知られる楓林と、対岸の神護寺・西明寺等の伽藍、そして高雄神護寺門前集落等が作る固有性の高い風景による優れた俯瞰景観をも形成しているため、世界遺産の高山寺近辺の自然と歴史の調和した風景の保全を図る。



1) 高山寺からの眺望



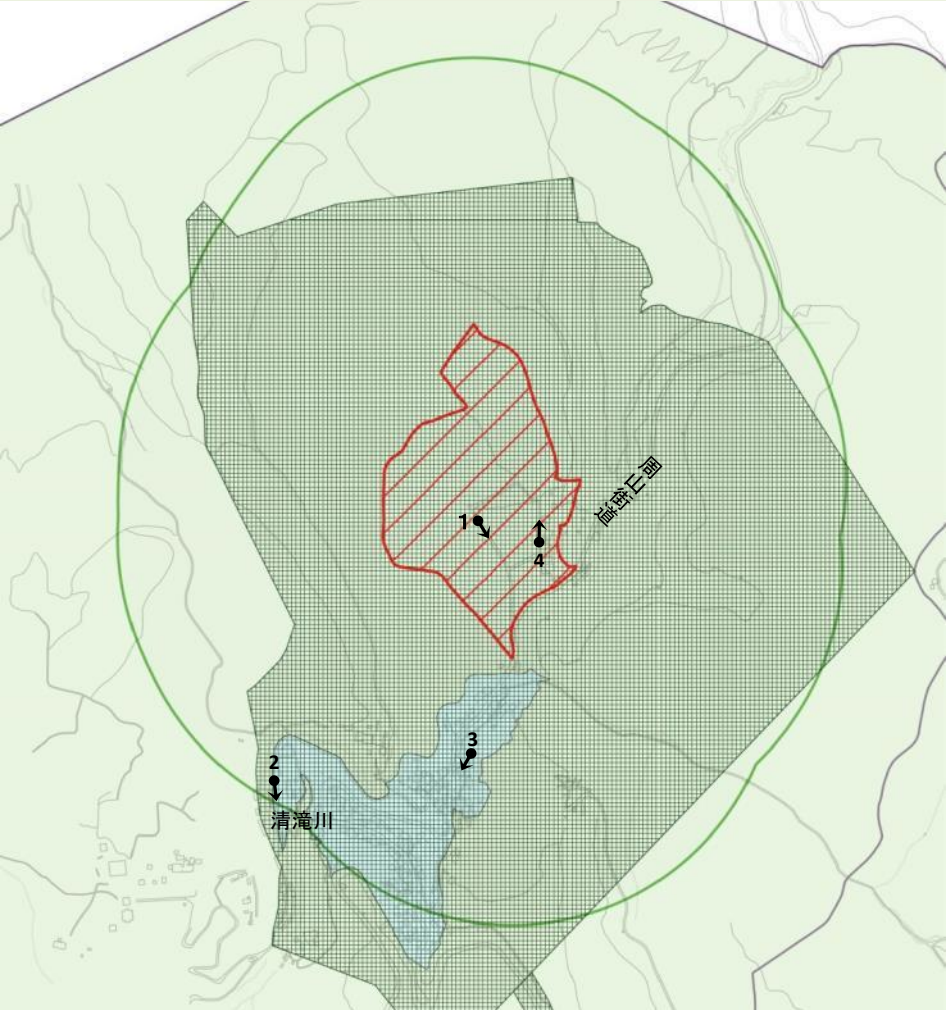
2) 清滝川沿い



3) 集落景観の眺望



4) 周山街道沿い



| 【凡例】          |                       |
|---------------|-----------------------|
| 眺望景観保全区域      | 景観地区                  |
| 視点場（境内）       | 山ろく型美観地区              |
| 視点場（参道等）      | 山並み背景型美観地区            |
| 近景デザイン保全区域    | 岸边型美観地区               |
| 風致地区          | 旧市街地型美観地区             |
| 風致地区第1種地域     | 歴史遺産型美観地区 一般地区        |
| 風致地区第2種地域     | 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区 |
| 風致地区第3種地域     | 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区   |
| 風致地区第4種地域     | 重要界わい景観整備地域           |
| 風致地区第5種地域     | 沿道型美観地区               |
| 風致特別修景地区      | 市街地型美観形成地区            |
| 建造物修景地区       | 沿道型美観形成地区             |
| 山ろく型建造物修景地区   |                       |
| 山並み背景型建造物修景地区 |                       |
| 岸边型建造物修景地区    |                       |
| 町並み型建造物修景地区   |                       |
| その他           |                       |
| 伝統的建造物群保存地区   |                       |
| 歴史的風土保存地区     |                       |
| 歴史的風土特別保存区域   |                       |

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 平凡社『寺院神社大事典 1 京都・山城』平凡社、1997、p.232

2) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.482

3) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.291

4) 京都市. 史料 京都の歴史. 第14巻 右京区. 平凡社. 1994. p.360

5) 同上、 p.362

6) 同上、 p.360

7) 同上、 p.360

8) 同上、 p.362

9) 同上、 p.362

10) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.145

11) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.386-p.390

12) 同上、 p.291